富士山かぐや姫ミュージアム
Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum

赫夜 ―かぐや―

博物館だより
2021 2.28 77号

新収蔵品 富士山コレクション展

令和3年(2021) 2月6日(土)～5月30日(日)

コレクション受領までの経緯

令和元年7月、広島市在住の武田弘(たけだひろし)さんから、60年以上の歳月をかけて収集された自身の富士山関係のコレクションを当館へ一括寄贈したいとのお話をいただきました。ご自身がテニスに親しんでこられたこともあって、武田さんは地元のテニス強豪高校へテニス留学でやってくる高校生に下宿を提供し、長年にわたりお世話をされてきた篤志家でもいらっしゃいます。今回、ご寄贈の話をいただいたのも、富士市内の方がかつて武田さんのもとで下宿生活を送られていたことがご縁となりました。

館名に「富士山」を冠する当館としては、願ってもない収蔵品の充実に繋がることから、ご厚意をありがたくお受けすることとし、令和2年秋、広島から富士への大移動をおこない、この様子は中國新聞に報じられました。武田さんのコレクションは、蔵や別棟等に分散して収納されており、箱数にして376箱に及び、現在、整理作業を進めている最中です。

コレクター武田弘さん

武田さんは、母親の実家が東京にあったため、上京の度に車窓から富士山を目にされていたそうですが、富士山が眺められるところへ住みたいと、学生時代を三島で過ごされました。20 歳くらいの頃、熱海で一富士二鷹三茄子（いちふじにたかさんなすび）の文様の中皿を手に入れたのが、生涯にわたり富士山関係の資料を収集されるきっかけとなったそうです。富士山には７回登頂され、初登頂は昭和28 年（1953）８月、高校生の頃で、祖母や親戚一同とともに登山されています。

昭和 28 年の初登頂時の記念写真
（前列右から２人目が武田さん）

コレクションの大移動

令和２年（2020）は、初春から新型コロナウイルス感染症が世界を席巻し、現在も収束の見込みがたっていません。本年度中の運搬が可能なのか、危ぶまれた時期もありましたが、10 月中旬、無事に広島から富士への大移動を済ませることができました。

武田さんのご自宅は、背後に中国山地の南縁が迫る急傾斜地の中ほどにあり、大型車両を横付けすることができなかったため、小型車両や手運びでのピストン輸送が必要となりました。現地では、運搬業者13 名、博物館スタッフ２名が、蔵・車庫・コンテナ倉庫の３か所に分かれて１週間をかけて資料の確認･記録写真･梱包・搬出作業をおこない、10 トン車を前発・後発２便出して富士まで輸送されました。

10 トン車で搬出されるコレクション

コレクションの整理

膨大なコレクションは、富士山かぐや姫ミュージアムの外部収蔵庫に一括で仮置きされています。まず、２月の本展に間に合わせるべく、展示品の選定を含めた資料確認・洗浄・撮影・採寸などの作業が進められました。この作業には、富士博ボランティアの皆さまのお力添えもいただき、展覧会前までに約３割の資料確認が終了しています。

今後も引き続き資料確認を進め、全点数を明らかにした上で、洗浄、詳細な資料調査、常設展示などへの展示、コレクションの全貌の情報発信などに努め、広くご利用いただけるよう整えていく予定です。

本展の概要と今後の展示について

富士山コレクションをお披露目する目的で開催される本展では、寄贈者武田弘さんのご紹介をはじめ、膨大なコレクションのうち、整理が済んだものから、陶磁器、工芸品、絵画、建具、くらしの品々などを選んでご紹介しています。

また、本展終了後は当館常設展示に富士山コレクションコーナーをつくり、常にご覧いただけるよう整備いたします。また、季節ごとに展示を入れ替えて富士山関係の収蔵品をご紹介する展示室２「富士山の玉手箱」においても、年に一度は特集展示としてご紹介する機会を設ける予定です。

富士山かぐや姫ミュージアムの新しい目玉となる収蔵品にご注目いただけますと幸いです。

（高林　晶子）

展示会の様子

◆ ミュージアムトークのご案内

午後１時半から　展示室５にて開催　参加無料

【4 月】 4 日（日）、17 日（土）、29 日（木祝）
【5 月】 5 日（水祝）、16 日（日）、29 日（土）、30 日（日）

展示室② 富士山の玉手箱

こどもと富士山　展示会報告

（展示期間：令和３年１月５日～３月７日）

富士山かぐや姫ミュージアムリニューアルオープン後、初めて本格的に市内小学校と連携した展示会「こどもと富士山」展を開催しました。

今回の展示会では、子どもたちにとり、郷土のシンボルとして、親しみのある存在である富士山からイメージしたお菓子のイラストを小学校６年生を対象に募集することにしました。今般の状況で、何かと制約の多い中、小学校生活まとめの学年である６年生の子どもたちに、博物館としてひとつの思い出づくりの場を提供したいという思いもあります。

富士市内の小学校27 校にご協力をいただき、６年生の子どもたちに募集を呼びかけたところ、子どもたちの視点で、自分なりの感覚や思いで眺めた富士山からイメージしたユニークなお菓子のイラストが、およそ 600 点集まりました。赤富士や青富士、逆さ富士をはじめとした富士山の自然を表現した作品、苺やブルーベリー、シラスといった地場産品を材料にした作品、地域の伝承「竹取物語」をモチーフにした作品など、すてきなアイデアがいっぱいです。その中には、具体的なレシピが付けられているものもあります。

また、市内の小学校27 校から眺めた富士山の写真も併せて展示し、場所ごとに特色のある、富士山の姿や周辺の風景を再発見していただくことにしました。

さらに、展示期間中に富士山ウィークを迎えることにちなみ、「富士山」の歌が掲載されている新旧の音楽の教科書も展示しました。休日を中心に家族や友達と訪れ、和（なご）やかに会話を交わしながら、各小学校の展示作品をご覧になる光景が見られました。その中には、「子どもたちのアイデアを郷土のお菓子として実現したらどうか。」という声も聞かれました。

（内田　昌宏）

展示室② 富士山の玉手箱

鳥瞰図（ちょうかんず）にみる富士　展示会案内

（展示期間：令和３年３月２０日～６月１３日）

皆さんは、鳥瞰図を知っていますか？

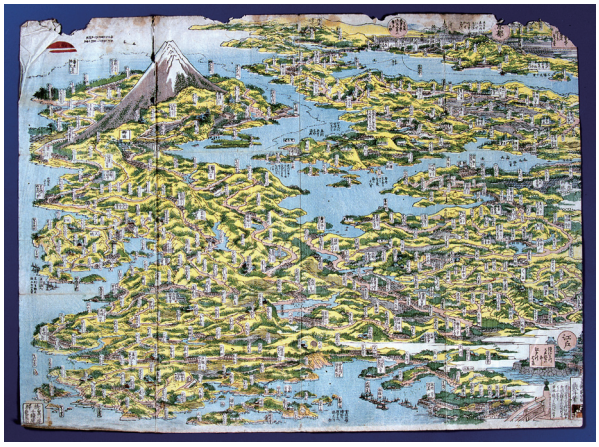
鳥瞰図とは、鳥が見下ろすように地上を広範囲に描いた地図で、本来ならば見ることのできないような場所も描き出されました。

安土（あづち）・桃山（ももやま）時代には、洛中洛外図屏風（らくちゅうらくがいずびょうぶ）などに鳥瞰図のような見下ろした構図が見られ、江戸時代後半には遠近法（えんきんほう）が用いられるようになると、時代の著名な絵師によって、街道や都市部の風景を題材にした鳥瞰図が作成されました。

そして、大正から昭和初期にかけて鉄道網が発達し、短時間での移動が可能になると、人々は日本各地の観光地を訪れるようになり、各名所の情景などが分かりやすく理解できるものを求めるようになりました。その希望にこたえるように、多くの鳥瞰図が描かれるようになり、そのなかで、古くからの名所である富士山を描いたものも数多く作成されていきました。

今回の展示会では、富士山が描かれた鳥瞰図を中心に、描かれ方の違いを見るとともに、コロナ禍で旅行できない昨今の状況のなかで、旅行気分を味わっていただけたら幸いです。

（成瀬　陽介）



葛飾北斎　「東海道名所一覧」　文政元年 (1818)

牧之原茶園および静岡市を中心とせる静岡県鳥瞰図
昭和２年 (1927)

- コロナ禍とこれからの博物館 -

コロナ禍を機に、当館をはじめ多くの博物館が展示やワークショップなどを、動画やスライドショー化し、Web上に公開する「バーチャルミュージアム」を盛んに立ち上げており、この流れは今後も急速に進展していくことが予想されます。

しかしながら、「バーチャルミュージアム」は使い方を誤ると博物館不要論につながりかねません。博物館の魅力はなんといっても、実物資料を間近に鑑賞・体感したり、直接解説を聞いたり、触れたりする中でのリアリティ溢れる感動にあると思います。

さて、当館の設置テーマは「富士に生きる紙のまちの歴史と文化を探求」ですが、平成26年（2014）の富士山世界文化遺産登録、並びに平成28年の本館全面リニューアルを機に、観光エージェントやインバウンドを含めた内外から訪れるツーリストを対象とした富士山文化観光関連事業に注力してきましたが、今一度原点に立ち返って、地域の歴史・文化の情報発信施設として、子供たち（≒学校教育）や市民（生涯学習～高齢者福祉）に主軸を置いた社会教育施設としての運営を強化してまいりたいと考えております。

そのような中で、今後の展観事業のテーマ設定について想った事ですが、私も多少なりとも関わりましたが、今から30数年前富士市教育委員会では、市内石造文化財悉皆調査で当時盛んに活動されていた市民団体の「富士文化財愛好会」の方々と官民一体で、市内441ヵ所の祭礼調査を２ヵ年かけて実施し、『富士市のまつり』という報告書を刊行しました。これらの祭礼について再見して感じたことですが、祭礼の目的は先祖や神仏の供養や大願成就などをはじめ、病気平癒や家内安全、悪霊退散といった、現世利益を願った祭りもかなり見られます。昔から人々は、人知を超えた病魔（≒疫病神）に対峙する際、医学と共に、様々な祭礼・おまじない・修法の際に、護符や、形代・縁起物・各種石造文化財の造営などの形で疫病退散を試みてきました。そこにスポットを当ててみることもこの時期ならではの「温故知新」かなと考えている次第です。

（館長　木ノ内　義昭）

本市今井の毘沙門天大祭「ダルマ市」は、かつては疱瘡除けのダルマとして珍重されていまいた。
残念ながら今年はコロナ禍で中止となりました。

岳南電車コラボ「ふじかぐちゃん名月号」

当館キャラクターふじかぐちゃんのヘッドマークをつけた「ふじかぐちゃん名月号」が昨年10月、岳南鉄道を走りました。10月３日、31日は夜景電車として運転され、当館学芸員が富士市に伝わるかぐや姫伝説を紹介しました。ふじかぐちゃんがデザインされた、史上初？！“竹形硬券”のかわいいフリー乗車券と竹採公園最寄り駅の比奈駅入場券も販売され、好評でした。

（瀧浪　和美）

富士山かぐや姫ミュージアム　赫夜－かぐや－　博物館だよりNo.77

発行年月日　令和3（2021）年２月28日
編集・発行　富士山かぐや姫ミュージアム
Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum
印　　刷　株式会社　文光堂

ふじかぐちゃん

住所・連絡先　〒417-0061　静岡県富士市伝法66-2　TEL.0545-21-3380　FAX.0545-21-3398
HP. https://museum.city.fuji.shizuoka.jp/　E-mail. museum@div.city.fuji.shizuoka.jp

開館時間　４月～10月　9:00～17:00　11月～３月　9:00～16:30
休館日　月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日、12/29～1/3（年末年始）
歴史民俗資料館（分館）　開館時間・休館日は本館に同じ
博物館屋外展示（ふるさと村）　休館日なし　**すべて観覧無料**

タイトルの「赫夜－かぐや－」は、富士山のかぐや姫物語を今日に伝える「富士山大縁起」（当館蔵）に登場する「赫夜姫」からとっています。

このリーフレットは、植物油インクを使用しております。